

よえもん

※「よえもん」とは、中江藤樹へ親しみを込めて呼ぶ通称のことです。

論語から学ぼう

(記念館玄関横案内板に掲示中です)



《 第78号 》 (2022年4月発行)

令和4年度前期企画展 「藤樹神社宝物展」より

シリーズ
よえもん



藤樹神社は中江藤樹先生を神としてまつた神社で、今からちょうど100年前の、大正11年(1922)5月21日に建てられました。

100年を迎えるにあたり記念館では、「藤樹神社宝物展」を開催しています。

神社の代表的な宝物として、「藤樹神社」と書かれた御神号があります。これは、大正10年(1921)に東宮御学問所(皇太子…のちの昭和天皇の学問所)の総裁をしていた東郷平八郎が書いたもので、大正14年(1925)額に彫刻され、神社正面の大鳥居に掲げられました。

また、大鳥居の右手にある社標の文字は、大津市膳所出身の教育家で、御学問所で皇太子に倫理を教えていた杉浦重剛が書いたものです。



大鳥居



社標

御神号 東郷平八郎筆

論語「子罕第九之四 書 淵田瑞穂さん

子四を絶つ。
意なく必なく、
固なく我なし。

「先生(孔子)は四つの事を絶たれた。勝手な心を持たず、無理押しをせず、執着をせず、我をはらない。」という意味で、孔子が人と関わりあう中で気をつけている4つの事柄を示しています。

相手に対し、自分勝手な気持ちや言葉を押しつけず、相手の気持ちをよく考えた行動ができるように、という思いがこめられています。

新年度を迎えた4月、自分の言葉や行動を振り返り、新たな気持ちでスタートしてみてはいかがでしょうか。



編集後記 新着情報 etc

令和4年度が始まっています。人や物の動きもようやく春らしく活発になってきました。学校や職場、グループ等では新しい人との出会いもあり、新しい学びや仕事と向き合ってがんばっておられる学生さんや新社会人の方をたくさん見かけます。こちらでも少し新鮮な気持ちで過ごせる喜びを感じています。本年度も引き続き記念館だより「よえもん」を発行します。愛読いただければ幸いです。今回は本館から南へ徒歩10分ほどにあります「藤樹書院」の年中行事を紹介いたします。

☆「講書始め(鑑開き)」【1月11日】藤樹先生の存命中からこの日に行われてきた行事。先生は「愛敬」の2字を掲げて門弟と共に「孝経」を読みました。それをしので参加者一同が拝誦します。※拝誦とは「つつしんで読む」ことです。

☆「立志祭」【3月7日】藤樹先生の誕生日。11歳のとき、「聖人学んで至るべし」と志を立てたことにちなんで小学3年生が将来の夢を作文に託して参詣し、成人式に受け取ります。

※「常春祭」(7月23日)、「儒式祭典」(9月25日)は6月号で紹介いたします。